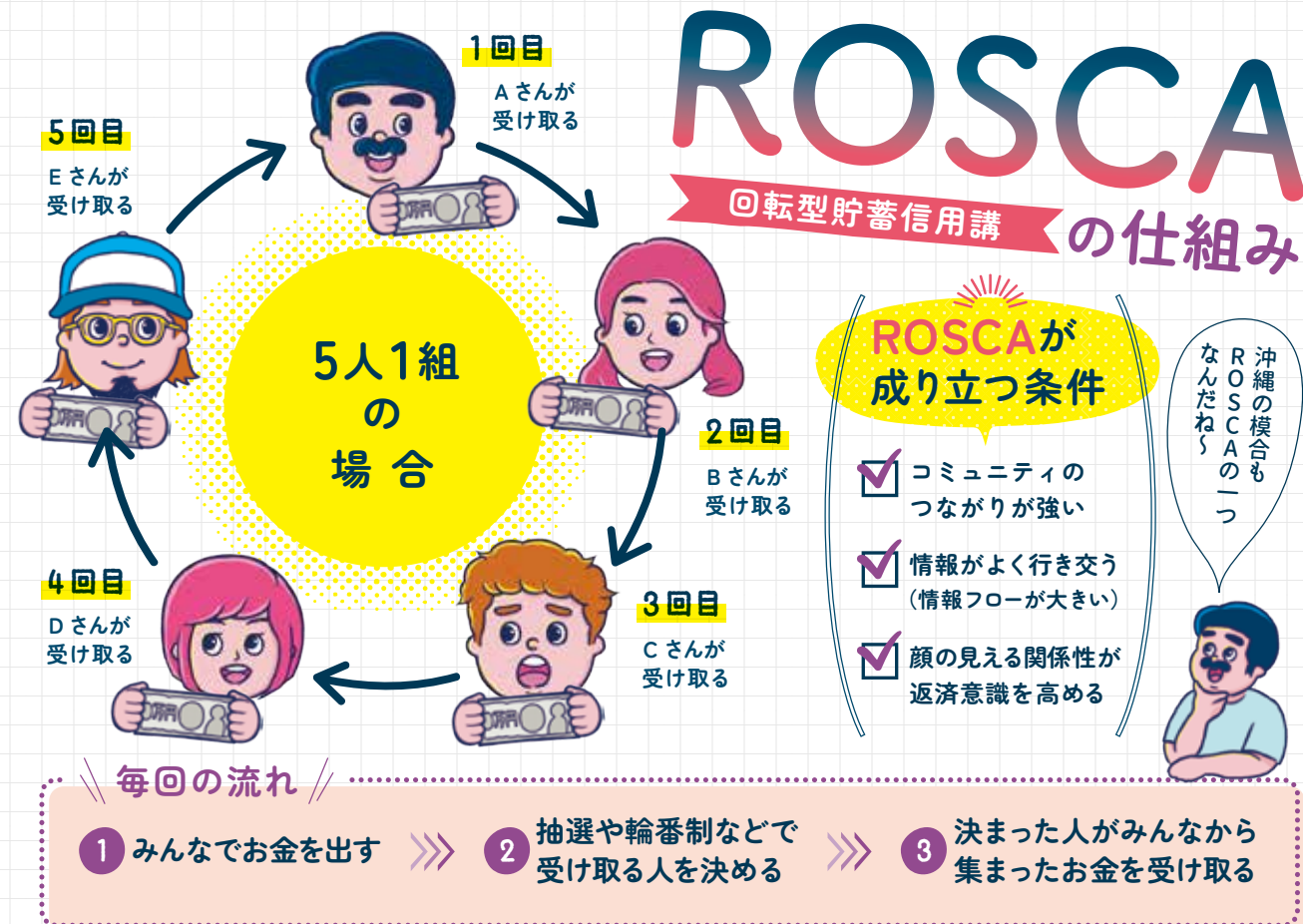




模合が定期的集まるきっかけに。仲間同士で会話も弾み、楽しい時間を過ごせる。

**沖縄の模合は世界にも？！
人と人との信頼関係が生み出す
金融の新たなカタチとは**

沖縄の暮らしに根付いた
身近なお金の仕組み

「今月はどこで模合する？」
そんな会話をしたり、耳にしたりしたことはありませんか？模合とは、友人や職場の仲間など、気の合う人たちが定期的に集まり、お金を出し合う仕組みのこと。飲食を伴うことも多く、親睦を深める場にもなっており、県民にとって馴染み深い慣習です。

地域経済を専門にし、沖縄の模合についても研究している中村研二先生に、その歴史について聞いてみました。「沖縄では、本土復帰ごろまでは金銭の貸し借りを目的にした『金融模合』が盛んで、沖縄の金融市場においても大きな役割を果たしていました。金融機関の発達などに伴って徐々に衰退しましたが、血縁

教えてくれる人



中村 研二先生

や地縁、仲間同士のつながりを目的にした『親睦模合』として続いています。」

中村先生によると、模合とよく似た仕組みは世界各地に点在しており、「ROSCA（ロスカ、回転型貯蓄信用講）」と呼ばれているそうです。日本の「頼母子講」や「無尽」もROSCAの一つですが、今ではあまり見られなくなりました。一方、世界各地では、開発途上国を中心に現在も行われているといいます。



1964年の平和通り。当時は今以上に盛んに模合が行われていた。（沖縄県公文書館提供）

信頼の強みを生かした
地域を支える金融形態

ROSCAは、参加者が定期的にお金を出し合い、集まったお金を順番や抽選などで一人ずつ受け取る仕組みです。最大の強みは、互いをよく知るからこそ生まれる信頼関係。誰がどんな人か分かるからこそ、「この人になら貸しても大丈夫」という安心感が生まれるのです。



沖縄では身近な模合。職場模合や門中模合、同期生模合など種類もさまざま。

「必要となしに必ずお金を受け取れるとは限らない」「長期の資金には向かない」などの課題もあります。そこで中村先生が着目したのは、「信頼」という強みを生かしながら、現代的なリスク管理や外部からの資金、行政との連携を組み合わせる方法です。

例えば、カナダのある地域では、住民でつくる組織に公的な資金を組み合わせ、事業者などへの融資につなげています。「信頼関係」と「現代の金融」を掛け合わせれば、地域の未来を支える新しい金融の形が見えてくるかもしれません。沖縄の模合にも、そんな可能性が秘められているのではないのでしょうか。

今回のまとめ

**ユイマールの
心が
未来を動かす
原動力に！**

気心知れた仲間同士で集まり、お金を融通し合う沖縄の模合。実は似たような文化は世界のあちこちに息づいており、経済学では「ROSCA」と呼ばれています。顔の見える間柄だからこそ生まれる安心感に、今の時代ならではの仕組みや工夫を掛け合わせることで、暮らしを支える新たな力になるかもしれません。